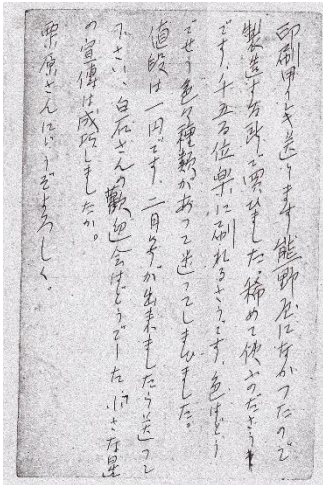


# 「森銑三刈谷の会」だより No.16

発行 2023年1月21日(月刊・メールでの投稿歓迎)  
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会  
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu\_s@katch.ne.jp



## 弟次郎から銑三への葉書

1922年1月4日浅草橋局からの差し出し。印刷用インキを東京で買ったことを知らせている。「二月号が出来ましたら送って下さい」「栗原さんにどうぞよろしく」とある。(継承者の掲載許可有り、転載不可)

## 第16回(2022/12/17)「高崎南小学校代用教員時代の森銑三 その2」参加15人 (長嶋秀雄)

明治に学制がしかれてから、天皇制国家主義の教育体制が築かれた。学校儀式のほとんどが天皇制に関するもので、「御真影」・「教育勅語」・「奉安殿」が中心になり、国定教科書の制定や文部省唱歌が国民に与えた影響は大であった。

しかし、大正デモクラシーの風潮が高まり、全国各地で新しい教育運動が起こっていた。1918年(大正7)、第一次世界大戦が終わるが、ロシア革命に対して、シベリア出兵を行った日本では各地で米騒動が起こった。この年、『赤い鳥』が創刊され、翌年、画家の山本鼎は児童自由画運動を提唱した。長野や千葉師範学校の自由教育・下伊那郡龍丘小の木下茂男(紫水)の自由画教育・沢柳政太郎の「成城学園」で学んだ谷騰(ノボル)が近江に開いた「昭和学園」等、公立学校の画一主義に対して、個性尊重の児童中心主義の教育を行う教師達が各地に存在した。

前回、「森銑三は、1920年(大正9)8月に高崎南尋常高等小学校代用教員として赴任し5年女子組を受け持った。月給36円。25歳。」と記したが、実際は、中途採用だったので、8月から翌21年3月は校長室の一隅で成績処理等の事務仕事をし、4月から教頭と5年女子組を担当し、国語、国史、音楽等を担当した。

銑三は、昭和8年10月1日~12月15日号の『日本及日本人』に「現代教育に対する私見」として当時の事を書いている(『森銑三著作集続編』第13巻所収)。

「時間の都合のつく限り、なるべくよい童話を沢山読んでおきたい。さうしたことから子供達に美しいものへの憧憬の念を、知らず知らずの間に植ゑつ

けたい。そして子供達を、子供らしい空想の世界になるべく長く住まはせておいてやりたい。」

「わが光輝ある三千年の国史が、いかに万国に卓越してゐるか、わが国の古典に、いかに美しきもの、尊ぶべきものを高めるかを十分に悟らしめたならば、国史教育も古典教育も、広義の情操教育に含まれる」

「いかにして教育を振興せしむべきか。答はただ一、良教員を得るにある。・・良教員の第一資格は、児童愛重の精神にあると。・・私は師範教育などというものは廃してさし支へないものだと思つてゐる」

「子供はいい。実にいい。教室内に於て、また教室外に於て子供と接するのは何より愉快だ。しかし学校そのものは一?それは愉快でも何でも無い。或は不愉快極まる存在だ。——これが嘗て代用教員をしていた頃の私の偽らぬ感情だつた。」

「高崎南小学校の校長は全くの事務家であつた。教育は事務なりといふのがその信条らしかつた。

郷里の母校の熊木直太郎校長先生は時間外に子供達を集めて特殊な教育をされた奇特家だつた。熊木校長と南校の校長との相違を思つた」

近江にも『赤い鳥』に応募する児童が沢山いた。高崎東小学校に勤めていた栗原長治の担任した児童の詩が『赤い鳥』に北原白秋の選により掲載された。栗原は、銑三が教員の研修機関である学事会で行った高崎教育への現状批判に共鳴した。手紙のやり取りから、同じ下宿で暮らすようになり、1921年(大正10)7月に子供のための童謡雑誌『小さな星』を創刊した。校長先生と上手くいっていないことを心配した母親や大阪の妹の便り、インキを買って東京から送った弟の葉書からもその当時の苦勞が伺える。

しかし、二人は、外国の絵本を集めた文庫作りや児童劇団を招くなどの夢を語り、「愉快だな、愉快だな」を連呼し、散歩にも、講演会や音楽会へも、本屋へも、銭湯にもいつも一緒だった。(「小さな星一森さんと私 栗原長治」『森銑三著作集』第5巻月報5)

栗原は山間部へ転任させられたが、1944年(昭和19)4月には島小学校の校長になり敗戦を迎えた。その6年後、斎藤喜博が島小校長になり「島小の教育」を全国の教師に発信したのは偶然であろうかと思ふ様な縁を感じた。

## 今後予定

2023/1/21(土) 神谷 随筆「羽鳥千尋」を読む

2023/2/25(第4土) 名古屋図書館児童室の森銑三